

命化計画を含めた報告書を市に提出する予定。

モニユメントは、昭和三十九年に平和の灯建設委員会が建立したRC構造物で、設計は丹下健三氏（当時東京大学教授）が担当。近年、汚れやひび割れが目立つ状況だが詳細な補修歴が不明のため、放置すれば再劣化や大規模な補修が必要になる可能性がある。調査は外観形状・寸法、コンクリート品質、配筋状況、塗装塗膜等を、できる限り非破壊の方針で行う予定で、既に協力を表明している会員もいるという。

「平和の灯」劣化調査 県コンクリート診断士会

広島県コンクリート診断士会（中区南竹屋町五―一二、米倉亜州夫会長）は先月、平和記念公園内のモニユメント「平和の灯」の劣化調査計画案を発表した。会員によるボランティアで実施する方針で、今月末まで有志を募る。四月末頃に現地を調査後、七月以降に長寿